

都心の低空飛行やめて

羽田増便計画 品川で撤回求めパレード

羽田空港の増便計画に伴う都心上空の低空飛行計画に反対する品川区内の住民団体は21日、飛行コースにそって約120人がパレード、商店街などで「力を合わせて計画を撤回させよう」と買い物客などと呼びかけました。

パレードを実施したのは、「羽田増便による低空飛行に反対する品川区民の会」（秋田操代表）。しながわ中央公園の出発集会で、秋田代表は「国交省の説明会に参加したのは、37万人のうち2000人ほど。この問題が区民に知られていないなかで、国交省は今年の夏までに決定するとしている」とのべ、直接区民に呼びかけるパレードの意義を強調しました。パレードは大井町駅前、青物横丁、

旧東海道品川宿商店街、鮫洲公園までの約3キロ。いずれも300人以下の低空飛行に悩まされる地域です。ドラムの音に合わせ「みんなが苦しむ騒音いらぬ」「低空飛行はいらぬ」「子どもを守れ」などのラップ調のコールが商店街に響きました。

陸橋の上で、パレードを見ていた地元・南品川5丁目の40代の夫婦は「この問題は知らない人や関心のない人が多いので、こうやって訴えてくれるのはありがたいですよ。私たちも参加したいくらいです」と感想を語っていました。

終点の鮫洲公園では、保育園に3歳児を預けている若い夫婦から「騒音の少ない小学校に行かせたいけど、どうすればいいか」などの質問も。秋田さんから区の対応などを聞き、反対の声を広げたいと署名用紙を持っていく若い母親などの姿もみられました。

出発集会では、安藤泰作（共産党）、吉田ゆみこ（生

「東京民報」2月28日付



低空飛行ルートに沿ってパレードする参加者21日、品川区

活者ネット)の両区議がいさつ、共産党区議が多数参加していると紹介されました。

会の活動に最近参加した住民(55)は「経済ばかり優先で住民はその犠牲になるのを許すわけにはいかないと思い参加した」などと話しました。

次回パレードは3月20日。

(松橋隆司)